

## 国際青年平和学会

### 南京大学での英末の回憶



吉永英末

9月25日から、南京大学に来て、1週間が経ったばかりです。でも、その収穫と感じたことは、その日数に比例しないものでした。

24日に南京に着いたわたしは、翌25日に劉成先生に招待され、夜の食事に参加しました。さまざまな国の平和活動をしているNPOの方々、平和学の教授の方に囲まれて一緒に食事をしました。

わたしは、箸を握るよりも、両隣の先生方に夢中になって話しかけました。日本でも上海でも、平和学、平和活動をしている外国人の方々と、こんなにも近くで話をすることは、今までありませんでした。「こんな貴重なチャンスはない」、とわたしは思い、つたない英語で必死に質問し、交流をしました。

食事会の後でわたしは劉成先生のご自宅に招かれました。

そこで劉成先生とドイツ人学者Doroの共著である（出版されたばかりの）平和学の本をいただきました。まだ店に出していない、こんな貴重な本を頂けたことが嬉しすぎて、スキップをして家まで帰りました。

9月26日、南京大学で開催された国際青年平和学会。劉成先生がまさか私に、発言の機会を与えてくださるとは、思ってもいませんでした。

マイクを持たされて、同時通訳の付いている中で、自分の言葉を発しました。緊張して、脚まで震えたのは高校時代の学生論文発表会以来のことでした。

そしてここで出会ったイギリスのアレン教授、その奥様の高子さまとの出会いは私にとってかけがえのないものになりました。

短い交流の時間に語り合ったことは、これから人生を歩む上で大きな糧となるような、そんな大切な事ばかりでした。そしてふと笑った高子様の横顔を見ると、お母さんのような気がしてなりませんでした。

28日から30日までの二日間は、平和トレーニングに参加しました。



**平和トレーニングってなんだ、とお思いになるかもしれませんね。**

この平和トレーニングは、American Friends committee というNGO団体が主催する、平和構築、平和維持のモデルを実践的に考える活動のことです。

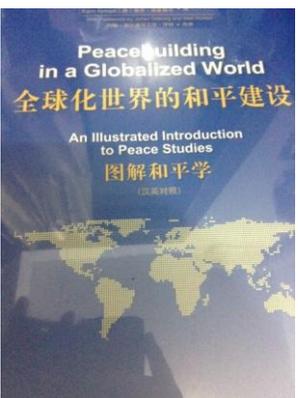
模擬国連を想像していただけるとわかりやすいと思います。中国全土から、記者や公務員、大学教授など、選ばれた20人の方々がここ南京大学に集まり、4日間の平和トレーニングを行います。使用言語は英語で、職業も年齢もバラバラな方々が朝9時から午後5時まで、そして食事も全てともにします。

そしてわたしもなぜか、このトレーニングに参加することになりました。

いつもの、「講演があるから見にこれば？」と言われて参加したものが、このような大規模なトレーニングだったということ、後になってやっと知ることができたのです。

講演を聞いた後に、「あなたは今日から来たの？」「はい。」と答えると、組み分けされたグループに入れられ、このトレーニングを受ける一人になってしまったのです。

上海を離れてわずか3日目で、まさかこのような機会に恵まれるとは思ってもいませんでした。



わたしの周りの方々は新聞記者の方や政治学の教授、公務員と立派な大人の方ばかりなのに、わたしだけが年少の学生ということで、最初はこれでよいものと戸惑いました。

そんなとき、劉成先生が駆けつけてくださり、私をみんなに紹介をしてくださいました。こうしてわたしは、残り2日間に迫ったこの平和トレーニングに見学者ではない一参加者メンバーとして参加することになったのです。

このトレーニングで学ぶことは、紛争解決や平和構築の方法、それはまさにわたしが学びたいと思っていたことばかりでした。わたしは、始めて聞く内容に、わくわくし、目をキラキラさせて聞いていました。心から幸せに思いました。

しかし、いざ実践的になトレーニングに入ると、言語は全て英語での討論。わたしは、言語の壁にぶつかりました。

自分の専門分野で、討論に参加して自分の意見を伝えたくても、英語でそれを表現する力が私にはありませんでした。

周りの方々は、アメリカで修士課程を修了した方、海外をレポートする記者の方、国際関係の先生など、英語を自由自在に操ります。

わたしは、自分が悔しくなり、また、焦りました。トレーニングが終わって家に帰るとすぐに英語の勉強を始めました。学校までの行き帰りはずっとイヤホンで英語を聞くようにしました。夢の中でも英語を話していました。

30日、トレーニングが終わり、修了証書の授与式があり、みんな一人ずつ感想を述べました。

わたしも始めて、みんなの前で英語を話しました。つたない英語で、でも感謝の気持ちをしっかりと伝えました。

「上海を離れて、一人で南京に来て、はっきりにってとても寂しくなるときがありました。でも、この2日間という短い間で、平和というひとつの、同じ目標を持った方たちに出会い、素晴らしい先生のもと一緒に学ばせて頂くことができて、本当に嬉しかったです。そしてこれからも、劉成先生のもとで平和学を学びたいと思います。こんなわたしを仲間に入れてくださり、本当にありがとうございました。」とお礼の頭を下げた途端会場からの思いがけない大きな拍手にわたしはおどろくと共に目頭がじーんと熱くなりました。

10月1日から、中国は国慶節で一週間の長期休暇に入ります。私は、上海に戻らずここ南京の小さな自分の部屋で過ごすことにしました。集中力の高まるこの部屋で、一人で部屋にこもって、英語の勉強と、平和学の勉強をすることを心に決めたのです。

弱音を吐くと、逃げてしまいたいと思うことも少なからずありました。住み慣れた上海の寮と、親しい友達、復日の食堂、図書館。心地よい場所を離れ、一人で南京に来て、学校の前の小さなアパートに住み、ご飯は毎回「学生証を忘れました」と言って、歩いて25分かかる南京大学の食堂に向かう日々。まだ友達も少なく、これまで復日で当たり前のように過ごしていた日々がとても恋しくなりました。

でも、わたしは平和学を学ぶために、ここに来たのです。その平和学を、精一杯に学ぶことのできる環境と、素晴らしい先生がここにいる限り、私は諦めません。どんなに寂しくても。

1月から、カンボジアにボランティアに行くチャンスをいただきました。そのチャンスをくださった、カンボジア在住のオーストラリア人Emmaとの出会いは、本当に貴重なものでした。彼女が中国を離れる前に「Emi、今度はカンボジアで会いましょう。Keep make peace!」という言葉を信じて、これからも前に進んでいきたいと思えます。

